

調査対象物質	分析法フローチャート	備考
<p>[15]2-[(ジメキシホスフィノチオイル)チオ]-2-フェニル酢酸エチル(別名:フェントエート又はPAP)</p>	<p>【水質】</p> <pre> graph LR A[水質試料 500mL] --> B[pH調整 1M塩酸 pH7以下] B --> C[固相抽出 Sep-Pak Plus PS-2 15mL/分] C --> D[乾燥 窒素バーン] D --> E[溶出 ジクロロメタン 10mL] E --> F[濃縮 窒素バーン] G[内標準添加 HCB-13C6, 0.5mg/L 20μL] --> F F --> H[定容 1mL] H --> I[GC/MS-SIM] </pre>	<p><分析原理> GC/MS-SIM</p> <p><検出下限値> 【水質】(ng/L) [15] 22</p> <p><分析条件> 機器 LC : HP 6890 MS : JMS-AMII 150 カラム SLB-5ms^{注1} 30m×0.25mm、0.25μm</p>

「平成18年度化学物質分析法開発調査報告書」準拠

調査対象物質	分析法フローチャート	備考
<p>[4]2-クロロ-2',6'-ジエチル-N-(メキシメチル)アセトアニリド(別名:アフロロール)</p> <p>[15]2-[(ジメキシシホスフィノチオイル)チオ]-2-フェニル酢酸エチル(別名:フェントエート又はPAP)</p>	<p>【水質】</p> <pre> graph TD A["水質試料 1,000mL アスכולピソ酸 pH < 3.5"] --> B["吸引ろ過 ガラス纖維ろ紙"] B --> C["固相抽出 Sep-Pak Plus PS-2 3mL/分"] C --> D["乾燥 窒素ハーヅ"] D --> E["溶出 シクロメタン 10mL"] E --> F["分取 5mL"] F --> G["濃縮 窒素ハーヅ 1mLまで"] H["内標準添加 HCB-13C6, 50ng"] --> G G --> I["GC/MS/SIM-EI"] </pre> <p><注>次に示す方法を採用した例もあった。 1:妨害ピークがみられた試料はさらにカラムHT-8でも分析した〔4〕。 「平成18年度化学物質分析法開発調査報告書」 準拠及び分析機関報告</p>	<p><分析原理> GC/MS/SIM-EI</p> <p><検出下限値> 【水質】 (ng/L) 〔4〕 11 〔15〕 22</p> <p><分析条件> 機器 GCMS-QP2010 カラム DB-5MS^{注1} 30m×0.25mm、0.25μm</p>

調査対象物質	分析法フローチャート	備考
<p>[4]2-クロロ-2',6'-ジエチル-N-(メキシメチル)アセトアニリド(別名:アラクロール)</p> <p>[15]2-[(ジメキシホスフィノチオイル)チオ]-2-フェニル酢酸エチル(別名:フェントエート又はPAP)</p>	<p>【底質】</p> <p>底質試料 湿泥 (乾泥換算約5g)^{注1}</p> <p>振とう抽出 メタノール 25mL^{注1}</p> <p>超音波抽出 10分間</p> <p>遠心分離 3,000rpm、10分間</p> <p>2回繰り返す</p> <p>振とう抽出 5%塩化ナトリウム水溶液200mL ヘキサン 20mL、10mL (2回目)^{注1}</p> <p>脱水 無水硫酸ナトリウム</p> <p>濃縮 窒素パーージ^{注1} 1mLまで</p> <p>クリーンアップ ENVI-Carb/PSA 溶出:ヘキサン 20mL^{注1}</p> <p>濃縮 窒素パーージ^{注1} 1mLまで</p> <p>カラム クリーンアップ^{注1} フロリジル 5g 洗浄:ヘキサン 30mL 洗浄:10%アセトン含有ヘキサン 10mL 溶出:10%アセトン含有ヘキサン 10~30mL</p> <p>濃縮^{注1} 窒素パーージ^{注1} 内標準添加 HCB-¹³C₆ 0.5mg/L 20μL^{注1}</p> <p>定容 1mL</p> <p>GC/MS-SIM^{注1}</p>	<p><分析原理> GC/MS-SIM^{注1}</p> <p><検出下限値> 【底質】(ng/g-dry) [4] 0.6 [15] 0.45</p> <p><分析条件> 機器^{注1} LC: HP 6890 MS: JMS-AMII 150 カラム SLB-5ms^{注1} 30m×0.25mm、0.25μm</p>
	<p><注>次に示す方法を採用した例もあった。 1:底質試料の量を乾泥換算10gとし、振とう抽出においてメタノールの量を50mLとし、次の振とう抽出において5%塩化ナトリウム水溶液の量を400mL、ヘキサンの量を40mL、20mL(2回目)とした。無水硫酸ナトリウムによる脱水後の濃縮を窒素パーージではなくロータリエバポレータで行った。ENVI-Carb/PSAによるクリーンアップにおいて溶出を20%アセトン/ヘキサンで行った。フロリジルカラムによるクリーンアップとそれに続く、濃縮は行わなかった。内標準物質の添加量を50ngとした。 「平成18年度化学物質分析法開発調査報告書」準拠</p>	